

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年2月19日 金曜日

SQLclのapexコマンドによるアプリケーションの一括エクスポート

以前にOracle APEXのアプリケーションのエクスポート・ファイルをコマンドラインから実行する（つまりアプリケーションとしてインポートする）方法について[記事を書きました](#)。

インポートする元となるアプリケーションのエクスポートを行う方法ですが、以下3つがあるでしょう。

- アプリケーション・ビルダーの画面から行う。
- APIのAPEX_EXPORT.GET_APPLICATIONを呼び出す。
- SQLclのapex exportコマンドを使用する。

本記事ではSQLclのapex exportを実行して、ワークスペース内にあるすべてのアプリケーションを一度にエクスポートする方法を紹介します。

最初にSQLclを準備します。以下のURLにアクセスし、ダウンロードします。

<https://www.oracle.com/database/technologies/appdev/sqlcl.html>

SQLclはJavaで作られているので、実行するコンピューターにJavaをインストールしておく必要があります。

Javaが入っていれば、ダウンロードしたzipファイルを展開しbin/sql(またはsql.exe)を実行するとSQLclが使えるようになります。

```
$ ./sql
```

```
SQLcl: 金 2 19 14:47:10 2021のリリース20.4 Production
```

```
Copyright (c) 1982, 2021, Oracle. All rights reserved.
```

```
ユーザー名 ('') system
```

```
パスワード (*****?) *****
```

```
Last Successful login time: 金 2月 19 2021 14:47:18 +09:00
```

```
接続先:
```

```
Oracle Database 18c Express Edition Release 18.0.0.0.0 - Production
```

```
Version 18.4.0.0.0
```

```
SQL> alter session set container = xepdb1;
```

Sessionが変更されました。

SQL>

コマンドライン・ツールとしては、sqlplusと大差ない（より高機能）です。

そしてSQLclには、apexのためのコマンドが含まれています。**? apex**または**help apex**で利用可能なコマンドが一覧されます。

SQL> ? apex

使用可能なオプション:

- list: データベースにインストールされているアプリケーションをリストします。
- log: APEX_WORKSPACE_LOG_SUMMARYからAPEXアプリケーションの使用状況をレポートします。
- export: APEXアプリケーションまたはワークスペース(あるいはその両方)をエクスポートします。

SQL>

apex listによって作成されているアプリケーションがリストされます。

SQL> apex list

WORKSPACE_ID		WORKSPACE		APPLICATION_ID	
APPLICATION_NAME	BUILD_STATUS	LAST_UPDATED_ON			
10	INTERNAL	4411		Oracle APEX System Messages and Native Types	
Run and Develop	09-OCT-20				
10	INTERNAL	4155		Scheme Authentication Login	
Run and Develop	09-OCT-20				
12	COM.ORACLE.CUST.REPOSITORY	8842		Universal Theme Sample Application	
Run and Develop	24-SEP-20				
10	INTERNAL	4000		Oracle APEX AppBuilder	
Run and Develop	19-JAN-21				
10	INTERNAL	4020		Oracle APEX – Create App Wizard	
Run and Develop	22-OCT-20				
10	INTERNAL	4350		Oracle APEX Workspace Administration	
Run and Develop	19-JAN-21				
10	INTERNAL	4050		Oracle APEX Internal Administration	
Run and Develop	19-JAN-21				
10	INTERNAL	4550		Oracle APEX Login	
Run and Develop	22-OCT-20				
10	INTERNAL	4600		Oracle APEX Issues	
Run and Develop	22-OCT-20				
10	INTERNAL	4650		Oracle APEX Feedback	
Run and Develop	22-OCT-20				
10	INTERNAL	4700		Oracle APEX New Service Signup	
Run and Develop	09-OCT-20				
10	INTERNAL	4750		Oracle APEX Productivity and Sample	
Applications	Run and Develop	22-OCT-20			
10	INTERNAL	4500		Oracle APEX SQL Workshop	
Run and Develop	22-OCT-20				
10	INTERNAL	4300		Oracle APEX Data Workshop	
Run and Develop	22-OCT-20				
10	INTERNAL	4400		Oracle APEX Application Migration	
Run and Develop	19-JAN-21				

10	INTERNAL	4900	Oracle APEX Websheets
Run and Develop	09-OCT-20		
10	INTERNAL	4850	Oracle APEX RESTful Services
Run and Develop	22-OCT-20		
2728471333018836	APEXDEV	101	Employees
Run and Develop	09-FEB-21		
2728471333018836	APEXDEV	104	Sample Trees
Run and Develop	09-FEB-21		
2728471333018836	APEXDEV	103	Tasks
Run and Develop	09-FEB-21		
2728471333018836	APEXDEV	102	Material APEX – Demo
Run and Develop	27-SEP-18		
2728471333018836	APEXDEV	100	PL/SQL Gateway
Run and Develop	09-FEB-21		

SQL>

こうして見ると、普段、アプリケーションを開発するときに使用しているアプリケーション・ビルダーやその他の機能自体がAPEXで作られたアプリケーションであることがよくわかります。

一番左にワークスペースIDが表示されています。**apex export**コマンドに**-instance**オプションと**-workspaceid** ワークスペースIDをつけて実行することで、指定したワークスペースに含まれるすべてのアプリケーションがSQLファイルとしてエクスポートされます。

```
SQL> apex export -instance -workspaceid 2728471333018836
Exporting Application 100: 'PL/SQL Gateway'
Exporting Application 101: 'Employees'
Exporting Application 102: 'Material APEX – Demo'
Exporting Application 103: 'Tasks'
Exporting Application 104: 'Sample Trees'
Exporting Application 8842: 'Universal Theme Sample Application'
SQL>
```

実際に作成されたファイルを確認します。

```
SQL> !
$ ls *.sql
f100.sql f101.sql f102.sql f103.sql f104.sql f8842.sql
$
```

apex exportのみで実行すると、使用可能なオプションが一覧されます。画面から設定できる内容は一通り指定可能です。

```
SQL> apex export
使用可能なオプション:
-applicationid:      エクスポートされるアプリケーションのID
-workspaceid:        エクスポートされるすべてのアプリケーションまたはエクスポートされるワークスペースのワークスペースID
-instance:           すべてのアプリケーションをエクスポートします
-expWorkspace:       -workspaceidで識別されるワークスペース、または-workspaceidが指定されていない場合はすべてのワークスペースをエクスポートします
-expMinimal:         ワークスペース定義、ユーザーおよびグループのみをエクスポートします
-expFiles:           -workspaceidで識別されるすべてのワークスペース・ファイルをエクスポートします
-skipExportDate:     アプリケーション・エクスポート・ファイルからエクスポート日付を除外します
-expPubReports:      ユーザーが保存したすべてのパブリック対話型レポートをエクスポートします
-expSavedReports:    ユーザーが保存したすべての対話型レポートをエクスポートします
```

```

-expIRNotif:      すべての対話型レポート通知をエクスポートします
-expTranslations: 変換リポジトリから、変換マッピングとすべてのテキストをエクスポートします
-expFeedback:     すべてのワークスペースのチーム開発フィードバック、または-workspaceidで識別されるチーム開発フィードバックをエクスポートします
-expTeamdevdata:  すべてのワークスペースのチーム開発データ、または-workspaceidで識別されるチーム開発データをエクスポートします
-expDeploymentSystem: エクスポートされるフィードバックのデプロイメント・システム
-expFeedbackSince:  YYYYMMDDという書式の日付以降のチーム開発フィードバックをエクスポートします
-expOriginalIds:   アプリケーションのインポート時のIDが、エクスポートにそのまま表示されます
-expNoSubscriptions: サブスクライブされたコンポーネントへの参照はエクスポートされません
-expComments:      開発者コメントをエクスポートします
-expSupportingObjects: はい(Y)、いいえ(N)またはインストール(I)を渡して、デフォルトをオーバーライドします
-expACLAssignments: ACLユーザー・ロール割当てをエクスポートします
-dir:              指定されたディレクトリ(-dir some/sub/directoryなど)にあるすべてのファイルを保存します
-list:             アプリケーションのワークスペースまたはコンポーネントにある変更されたすべてのアプリケーションをリストします
-changesSince:     日付パラメータ(yyyy-mm-dd)が必要です。-listの値を指定された日付以降の変更に制限します
-changesBy:        文字列パラメータが必要です。-listの値を指定されたユーザーによる変更に制限します
-expComponents:    アプリケーション・コンポーネントをエクスポートします。残りのパラメータはすべて、TYPE:IDという形式にする必要があります
-debug:            デバッグ出力を印刷します
-nochecksum:       コンテンツが変更されていない場合でも、既存のファイルを上書きします
-split:            アプリケーションを複数のファイルに分割します

```

その他にもアプリケーションを指定して、指定した日付以降に変更されたコンポーネントの一覧を表示したり、

```

SQL> apex export -applicationid 100 -list -changesSince 2021-02-09
2021-02-09 10:11 BREADCRUMB:2833396906901945      Breadcrumb
2021-02-09 10:11 BREADCRUMB_ENTRY:3130962713923428  Breadcrumb: 動的コンテンツ (2)
2021-02-09 10:11 LIST:2833809654901965            デスクトップ・ナビゲーション・メニュー
2021-02-09 10:16 PAGE:2                          2. 動的コンテンツ
Date          ID                               Name
-----
SQL>

```

特定のコンポーネントのみエクスポートすることもできます。

```

SQL> apex export -applicationid 100 -expComponents SHORTCUT:2976483336902675
Exporting Application 100
SQL>

```

以上、SQLclのapex関連コマンドの紹介でした。

完

Yuji N. 時刻: 15:19

共有

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
